

山階南だより 特別号

平成27年度 後期 学校評価アンケート集計

児…児童 保…保護者・地域 教…教職員 (%)

平成28年3月4日
京都市立山階南小学校
校長 西田 均
山階南小学校運営協議会
会長 直島 進

		項目 (質問)	A	B	C	D
①	児	学校生活は楽しいですか。	57.9	29.0	10.5	2.6
	保	子どもは楽しく学校生活を送っている。	58.5	34.5	6.6	0.4
	教	楽しい学級・仲間づくりに取り組んでいる。	85.2	14.8	0.0	0.0
②	児	先生の授業は分かりやすいですか。	55.6	32.8	8.8	2.8
	保	授業は分かりやすく工夫されている。	31.4	57.1	10.1	1.4
	教	分かりやすい授業を工夫している。	67.9	32.1	0.0	0.0
③	児	先生に大切にしてもらっていますか。	46.5	35.3	14.2	4.0
	保	教職員は一人一人の子どもを大切にしている。	35.5	51.1	11.8	1.6
	教	自己肯定感を育むように指導を工夫している。	86.2	13.8	0.0	0.0
④	児	みんなと仲良く協力していますか。	59.3	31.4	8.0	1.3
	保	学校・学年だよりなどから子どもの学校生活の様子が分かる。	32.9	50.9	13.9	1.3
	教	学年・学級の様子が分かるたよりを工夫している。	56.0	40.0	4.0	0.0
⑤	児	友達を大切にしていますか。	64.7	28.9	5.8	0.7
	保	子どもは活躍できる場や認められる場がある。	32.8	49.8	17.5	0.0
	教	一人一人を大切にする人権教育に取り組んでいる。	79.3	20.7	0.0	0.0
⑥	児	困った時は先生に何でも相談できますか。	34.1	33.6	23.0	9.3
	保	教職員は子どもからの相談に親身に対応している。	34.0	45.3	18.6	2.1
	教	子どもと何でも相談できる学級づくりをしている。	74.1	22.2	3.7	0.0
⑦	児	必ず宿題（自主勉強）をしていますか。	51.9	25.3	16.0	6.8
	保	子どもに家庭学習をするように声をかけている。	49.3	43.6	6.2	0.9
	教	家庭学習が身につくように、課題を与えている。	81.5	18.5	0.0	0.0
⑧	児	家庭でも読書をしていますか。	38.2	25.6	17.4	18.8
	保	家庭でも本を読むように声をかけている。	23.9	43.1	28.6	4.4
	教	読書に親しむ教育環境づくりをしている。	65.4	34.6	0.0	0.0
⑨	児	進んであいさつをし、丁寧な言葉づかいをしている。	42.7	38.0	15.1	4.3
	保	あいさつと言葉づかいに注意をはらっている。	46.9	44.5	8.5	0.0
	教	あいさつや言葉づかいを繰り返し指導している。	78.1	21.9	0.0	0.0
⑩	児	学校であったこと・友達のことを家族に話していますか。	55.9	26.3	9.8	8.0
	保	子どもとのふれあいや対話に心掛けている。	44.9	48.3	6.6	0.2
	教	教育目標と目指す子ども像に向けて教育活動に取り組んでいる。	69.0	27.6	3.4	0.0
⑪	児	地域主催の学校での取組に参加したいですか。	38.7	30.6	19.0	11.7
	保	P T Aや地域行事に進んで参加するように呼びかけている。	12.5	39.8	36.6	11.1
	教	P T Aや地域行事に参加するなど、連携を大切にしている。	46.4	42.9	10.7	0.0
⑫	児	地域での遊びの時、安全に気をつけていますか。	66.6	24.0	6.7	2.7
	保	安全（交通・防犯）について話をしている。	54.2	39.6	5.7	0.5
	教	放課後の遊びや防犯・交通安全について指導している。	79.3	20.7	0.0	0.0

A…よくあてはまる B…あてはまる C…どちらともいえない D…あてはまらない

平成27年度後期学校評価アンケート 集計結果による考察

- ① A・B評価の合計はあまり変化が無く、児童にとって学校生活は概ね楽しいようだが、1割程度の児童が気になる回答をしている。今後も教職員がより楽しい学校・学級を目指し、児童の主体的な活動や仲間づくり、さらには生きて働く体験活動を重視していきたい。
- ② 分かりやすい授業のために教員同士が日常の教育活動についてさらに研究を深め、児童が主体的に学び「できた・分かった」と感じられる授業を目指していきたい。学習内容の定着を図るために基礎基本を大切に学力保障に努め、言語活動を充実させていきたい。
- ③ 児童は先生に大切にしてもらっていると感じてほしいが、2割程の児童が気になる回答をしている。児童といろいろなことを話し、一人一人を徹底的に大切に寄添うことや、すべての児童がよさを発揮し自己実現できる場の工夫をしていきたい。
- ④ 概ねみんなと仲良く協力することはできているようだ。揉め事も少なく、たてわり活動等異年齢間の関係も育っている。児童どうしの繋がりを大切に協働することの必要性を味わわせ、学校生活の様子もたよりやホームページなどでさらに広報していきたい。
- ⑤ 児童は友達を大切にしていると感じているようだが、日々の生活で周りの人に不快な思いをさせる言動も見受けられる。大人も児童も人権感覚を磨き、やさしい気持ちで人に接することができるように、コミュニケーション能力を育てていきたい。
- ⑥ 児童と保護者の約7割が先生に相談出来るとしているが、クラス間格差が大きくC・D評価の多い担任は自分の指導の見直しをしていく必要がある。児童の困りを敏感に捉え寄添うと共に、児童や保護者の声を真摯に受け止める教職員であり続けたい。
- ⑦ 児童や保護者の回答は前回とほぼ同じである。宿題に止まらず予習・復習など家庭学習の習慣化をさらに身につけたいと考える。教員の課題のあたえ方や評価の方法をさらに工夫して、学習の習慣化に取り組んでいきたい。主体的な学びが今求められている。
- ⑧ 図書委員会やたてわりの読み聞かせ、毎月の親子読書の呼びかけ、教育後援会の援助による学級文庫の充実など本に親しむ機会を増やすようにしているが、読書習慣の定着は本校の大きな課題である。学校だけでなく家庭で本を読む習慣を積極的に働きかけたい。
- ⑨ 気持ちのよい挨拶ができる児童は増えつつも、言葉遣いについては継続しての指導が必要である。場をわきまえた言動など、よく考えて行動できる子に育てていきたい。
- ⑩ 学校のことを家庭で話す児童の割合は8割程度である。親も子も忙しく慌ただしい生活の中ではあるが、児童とのふれあいや対話にさらに心掛けていただきたい。楽しかったことや頑張ったことなど、さらには困りなども親子で共有できるようにしていただきたい。
- ⑪ 地域行事への参加については前回と比べるとやや減少傾向が見られる。学校とは違ういろいろな体験ができるので、ふれあい土曜塾やふれあい広場などに、興味をもって積極的に参加している児童も多いが、習い事などで土曜日の行事には参加しにくい児童もいる。
- ⑫ 安全指導は機会あるごとに行っているが、意識化して行動に移せるまで繰り返しが必要である。特に自転車では交差点で一時停止しない飛び出しが多く、不審者情報も寄せられることがあるので、防犯や交通安全について話し込んでいく必要がある。

《学校運営協議会の皆様より》

*全般的に児童・保護者ではA評価が微減あるいは横ばいであるのに対し、教職員のA評価が大幅に伸びています。教職員がモチベーション向上のために大変努力したと読み取れますが、今は児童や保護者の評価が伸びるほどの効果は見せてはいないようです。ただし、教職員の意識向上はきっとよい結果を招くと思われるので、児童目線の取組充実に期待します。

- ◎学校は、まず安全で安心して教育活動が行われるべきで、一人一人を大切にした教育実践を充実していく必要があります。よりよい生き方を学ぶために、さらに優しさと厳しさをもって、学力向上・人間力向上の山階南教育を充実・向上していきます。